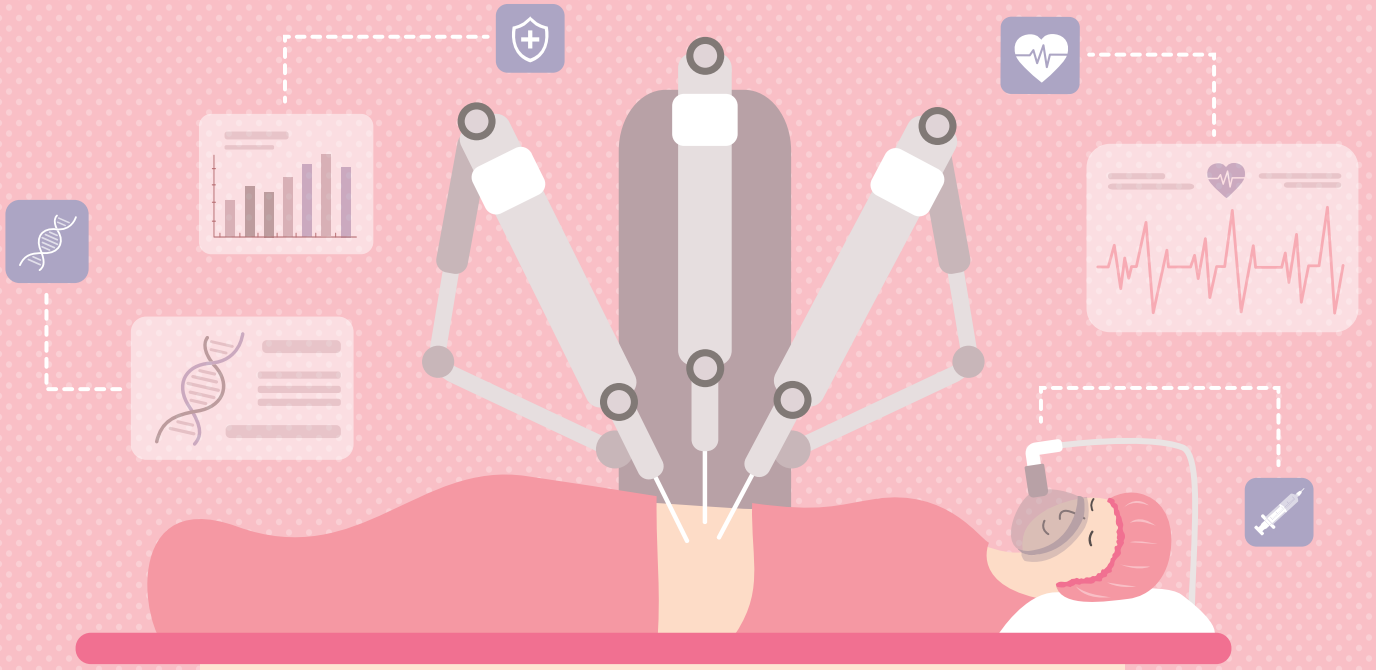
第65回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(JSGOE2025)／
アジア婦人科ロボット手術学会学術集会2025(ASGRS2025)

［会期］JSGOE2025：2025年9月18日(木)～20日(土)
ASGRS2025：2025年9月19日(金)～20日(土)
［会長］小林 裕明 先生(鹿児島大学医学部産科婦人科 教授)
［会場］城山ホテル鹿児島
〒890-8586 鹿児島市新照院町41番1号

ランチョンセミナー16

多様化するロボット支援下手術教育

～これから直ロボ世代をどう迎えるか？～



座長
小林 裕明 先生
鹿児島大学医学部
産科婦人科 教授

日時
2025.9.20(土)
12:30▶13:20 学会3日目

会場
第4会場
城山ホテル鹿児島2F
アメジスト

直ロボ世代、どう教える？
ロボット支援下子宮全摘、術者育成のリアル

演者1
砂田 真澄 先生
京都大学大学院医学研究科
婦人科学産科学分野 助教

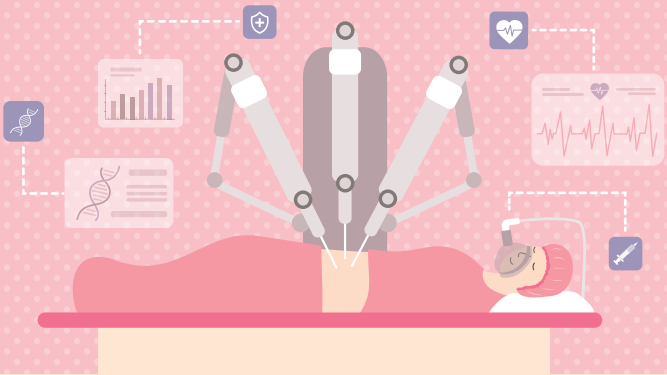
ロボット手術革命 ～最新デバイスとの融合～

演者2
小松 宏彰 先生
鳥取大学医学部附属病院
女性診療科群 講師

本セミナーは事前申込制です。

整理券の取得方法は、第65回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会／アジア婦人科ロボット手術学会学術集会2025Webサイトにてご確認ください。
https://www.congre.co.jp/jsgoe-asgrs2025/index.html

共催：第65回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会／アジア婦人科ロボット手術学会学術集会2025／科研製薬株式会社



ランチョンセミナー16

多様化するロボット支援下手術教育
～これから直ロボ世代をどう迎えるか？～

直ロボ世代、どう教える？ ロボット支援下子宮全摘、術者育成のリアル

演者1 **砂田 真澄 先生** 京都大学大学院医学研究科 婦人科学産科学分野 助教

2018年に婦人科領域におけるロボット支援下手術が保険収載されて以降、da Vinci Surgical Systemを中心にロボット手術が普及し、近年は他機種の導入も進んでいる。各機種の特性を理解したうえで、安全かつ質の高い手術を提供するためには、教育体制の強化が求められる。

従来は腹腔鏡下単純子宮全摘出術を後期研修1年目から指導してきたが、近年は腹腔鏡手術を経験せずにロボット手術から手術経験を始める“直ロボ世代”が増加しており、新たな指導法が必要となっている。当科ではsolo surgeryを基本としつつ、術野展開やカメラ操作は腹腔鏡と共通する点も多く、ウェットラボやシミュレーションでは腹腔鏡トレーニングを重視している。ロボットは術野の安定性に優れ、切開ラインの可視化や段階的指導がしやすい点も教育上の利点である。さらに、術者認定に時間を要する現状を改善すべく、学会主導のEquivalency Certification Programを多施設共同で開始した。本セミナーでは、直ロボ世代の育成における工夫と課題を共有する。

ロボット手術革命 ～最新デバイスとの融合～

演者2 **小松 宏彰 先生** 鳥取大学医学部附属病院 女性診療科群 講師

ロボット支援手術は婦人科領域において急速に普及しつつあり、我々はその限界を突破すべく、AI技術や新規デバイスとの融合による“ロボット手術革命”を実践している。まず、AI画像支援ツール「EUREKA」を用いた術中ナビゲーションにより、臓器の認識や解剖構造の可視化、安全域の提示などが可能となり、術者の判断を支援することで手術の質が向上した。また、多自由度かつ滑らかな操作性を有するラパロ鉗子「ArtiSential」を活用し、ロボット手術と腹腔鏡手術を融合した“Fusion手術”を展開しており、症例に応じた柔軟なアプローチを可能にしている。さらに、子宮体癌に対しては、ロボット支援下でのセンチネルリンパ節ナビゲーションを導入し、ICG蛍光法とRI法を組み合わせた高精度な手術を実現している。本演題では、これらの先進的取り組みによって拡張されるロボット手術の可能性と、その臨床的有用性、今後の展望について紹介する。